

障害児・者福祉部会（第3部会）活動報告

活動日	場 所	内 容
H29年 4/17	すこやか センター	「守山市の障害者施策の概要について」 講師：障害福祉課 主任 尾野 真奈美氏
5/23	すこやか センター	①「市内の障害者施設について」 講師：守山市通所施設連絡協議会 会長 竹原 智也氏 ②「手話実技講座」 講師：市障害福祉課 手話通訳員 久松 寛子氏
7/28	すこやか センター	「地域で生活をされている障がいのある方への関わりについて」 講師：守山・栗東障害者相談支援センター みらいく 相談支援専門員 太田 珠美氏 他 4名
9/15	守山市	守山市内障害者施設見学研修（蛸の里・びわこみみの里）
10/17	すこやか センター	①発達障害者の理解と関わり方について 講師：市発達支援課 主事 木傳名 健治氏 ②グループワーク～障害者理解と施設見学をとおして振り返り～
11/16	甲賀市	甲賀市障害者施設「やまなみ工房」見学・研修 櫛野寺散策
H30 1/16	すこやか センター	「守山市における特別支援学級とその現状について」 講師：守山市教育委員会 学校教育課 指導主事 内田 勉氏
2/9	守山市	ほたるの子発表会への参加（守山市民ホール）
3/8	すこやか センター	①「手話学習」講師：市健康福祉政策課 手話通訳員 福川 清美氏 ②グループワーク～今年度の振り返りと次年度に向けて～
4/16	すこやか センター	「精神障害の理解について」 講師：精神障害者地域生活支援センター「風」 精神保健福祉士 田中 好美氏
5/23	すこやか センター	「ボッチャ体験と講話」 講師：ユニスポもりやま 大田 千恵子氏
7/17	野洲市	「施設見学」AM：社会福祉法人びわこ学園 PM：滋賀県立野洲養護学校
9/27	すこやか センター	①「手話学習」講師：市健康福祉政策課 手話通訳員 福川 清美氏 ②「成年後見制度」講師：成年後見センター「もだま」竹村 直人氏
11/21	京都市	社会福祉法人「京都ライトハウス」施設見学 吉田あゆみ氏
H31 1/16	すこやか センター	「障害者差別解消法の現状と課題」 講師：市障害福祉課 課長 林 龍史氏
2/15	すこやか センター	「視覚障害について」 講師：ユニスポもりやま 会長 西村 秀樹氏
3/8	すこやか センター	①「手話講習」～災害時に役立つ手話～ 講師：市健康福祉政策課 手話通訳員 福川清美氏 障害福祉課 岡寄 眞理恵氏 ②グループワーク～今年度の振り返りと次年度に向けて～
H30年 R元年度 4/16	すこやか センター	「精神障害の支援について」 講師：守山市精神障害者・家族会 大幡 道広氏
5/15	守山市	施設見学「湖南ホームタウン」
7/11	河西会館	「地域で できること」 講師：滋賀盲ろう友の会

障害児・者福祉部会

はじめに

第3部会では、障がいに対する基礎知識を学習し、その上で施設を訪問見学することで、見聞を広めることができました。これらを通して、障がい者への理解を深めるとともに、切れ目のない見守りの重要性をあらためて感じました。お互い相手を尊重し、安心して暮らせるような地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。

活動を振り返って

守山・栗東障害者相談支援センター「みらいく」による研修では、「障がいて何」「自立って何」「普通の生活って」をみんなで考えることでした。とても新鮮な気持ちで、それぞれが意見を出しあえたと思えます。

障がいのある方ご自身が明るく話されている様子や、ご家族のお話は、心に残るものがありました。

毎年実施されている「もりやまふれあいフェア」のボランティアは、障がいのある方とのふれあいができる場所で、楽しいひと時を過ごすことができました。

2009年に作成された障がい者就労施設等の自主製品の紹介冊子「かけはし」を、新しく作り直し、多くの方に知っていただくよう関係団体等に配布しました。

〔やまなみ工房〕を訪ねて

まずは、山下施設長のエネルギッシュな言動に感動しました。利用者わずか3名、下請けの生産活動からスタートされ、転機は4年後におきました。ある利用者が生き生きとした表情で落書きをしているのを見て、「これだ！」と気づかれたということです。

- ① 利用者に労働を強いるのではなく、一人ひとりの自発を待つ
- ② 利用者の独特の発想と価値観に寄り添う
- ③ 利用者一人ひとりが穏やかに健康に過ごせるよう愛情と工夫を込めた環境を整える

三つの自慢

- 1 環境—自由な時間と空間
- 2 おいしい給食
- 3 スタッフの人間性

を挙げられておられました。

一人ひとりの個性をいかし、作品作りに取り組んでおられ、またその作品が認められ、収入につながり、利用者の生きがいになっています。

〔ポッチャ〕体験

パラリンピックの競技にもなっており、市障害者スポーツ協会の方がみんなで楽しもうということで、市内で出前講座をされています。老若男女、障がいの有無に関係なく、だれでもが参加でき、体を動かし、真剣に楽しむことができました。基本を教えてもらえば、ルールもそんなにむつかしくなく、チーム競技で盛り上がりました。車椅子の方などに教えていただきましたが、障

がいのあることなど、関係なく体験することができました。

守山市内でも、だれでもが楽しむ競技として広まっていければと思います。

[京都ライトハウス]を訪ねて

視覚障がいを持つ職員の方に施設中、階段を使って、案内していただき、体験談をお聞きしました。障がいのあることをまったく感じさせないくらい、一つひとつ丁寧に説明していただき、感激しました。視覚障がい者のために工夫されたパソコンや時計など、様々な道具を見せていただきました。1冊の辞書を点訳すれば、50冊にもなり、大きさも数倍になるということです。点字の図書を借りたいときは、配達サービスもあるそうです。いらなくなった点字の紙で、小物等を作って、販売されていました。施設の入り口には初代館長 鳥居篤治郎氏の言葉「盲目は不自由なれど不幸にあらずとしみじみ思う」が掲げられていました。

白杖をもっておられる方で、不安そうにされている場合は、「何かお手伝いしましょうか」と声をかけ、道を聞かれた場合は具体的に答え、誘導するときは、自分の右肘あたりをもってもらい、自分が半歩先を歩くようにするということでした。

障がいがあっても、まわりの環境を整えることで働くことができ、いきいきとした生活が送れることを実感しました。

これからの課題

民生委員児童委員として、高齢者に対する支援活動は、理解しやすい環境がありますが、障がい者に対する支援活動は、制度の複雑さや家族の考え方もあり、ほとんど行っていない現状だと思っています。

手話を3年間とおして、数回教えていただきましたが、まだまだあいさつ程度しかできませんでした。しかし、ジェスチャーや目をみて伝えたいという気持ちがあれば、伝わることも学びました。手話であいさつをすることで、聴覚障がいの方とふれあいができるのではないかと思います。

国は障がいのある方を、施設から地域で暮らすことで、障がいのある人もない人も共に暮らせる社会を目指しています。私たちも様々な障がいについて学びましたが、社会の障がいを少しでもなくし、私たちに何ができるか、手探りで考えていかなければならないと思います。

行政にもとめること

- ・障がい者の孤立・引きこもりを防ぐために、地域での交流の場をつくってほしい。
- ・障がい者にとって住みやすい町をつくるために、障がい者の声がどんな小さなことでも、行政に届くような、システムをつくってほしい。
- ・障がい者の親世代の高齢化による「8050」問題について、サービスの充実や住み慣れた環境で、生活できるような施策を講じてほしい。
- ・行政として、しっかりとした福祉ビジョンをもって、市民にアドバイスをしてほしい。
- ・手話を広めていくための方策として、だれでもがあいさつ程度の手話ができるように、市民に普及活動をしてほしい。
- ・災害時の障がい者等に対する対策をしっかり検討しておいてほしい。



2018.7.17 びわこ学園見学



2019.7.11 盲ろう者友の会とのふれあい